

東部日本語ボランティアネットワーク 第19回定例会議事録

2016年7月9日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

書記(三島:芦川)

【参加者】10名 (のびっこ) 石井、(富士宮) 望月、(沼津) 虎谷/芦川/岡本/相田、(裾野) 吉田、(SIR) 古橋、(伊豆の国) 久木野、(個人) 西村 (以上敬称略)

沼津にほんご教室

(相田)

- ・ 役員が2年の任期を終え、メンバーを一新した。部会長:山崎さん、副部会長:中田さん、斉藤さん。正副部会長に経験の少ないメンバーが多いが、合意形成を適宜とりつけて進めてくだされば心配ないと個人的には思っている。この合意形成プロセスをタイミングなど含めてしっかり運用できれば事務能力的には十分とし、より多くの人を正副部会長をできるようになって欲しいと思う。背景としてほとんどの方が引き受けたがらないという実情の中での現実的な考え方として、部会全体としてもあるべき考え方だと思うがどうだろうか。経験が少ないメンバーで心配している方もいるかもしれないが、あとは一人ひとりがよく考えプロセスをしっかりと見守る、アイデアを出すといった個人の責任を果たしていただけたらと思う。
- ・ 学習者の数はやや増えてきており30名以上。講師が別順調に増えている。
- ・ 前回の定例会で、新人講師研修の受講者のうち登録を認めてよいか微妙な方がいると話した。研修チーム内でよく相談したが多数決でも決まらなかったため、可否両方の意見についてメリット・デメリットと対策を洗い出して、最終的にチームリーダー判断で決定した。今後基準を設けることも必要と思うが、現状では未着手。

(岡本)

- ・ 入門コースを設けましたがうまく行かなかった。今超入門コースを検討中。
- ・ 10/8にスピコンがある。
- ・ (会社で)研修生の外国人3人に社内の人が勤務体制に合わせて教えているが、派遣社員の外国人は、日本語を習得する機会が非常に少ない。
日本語が出来ないと不良品につながり問題になる。

沼津 親子で学ぶ日本語ひろば(虎谷)

- ・ 今沢と第五地区センターで隔週の日本語教室を行っている
- ・ 報告書が日本語(漢字)で書けたと喜んでくれた
- ・ 日本語(レベル)ゼロで来る方が増えた
- ・ 沼津の教育委員会が来日間もない子供たちの日本語教育や学習支援に協力的でない

富士宮(望月)

- ・ 三委員に分かれて活動、協会の会長が市長へ
- ・ 第3日曜におしゃべり会を開催(土⇒日に変更)
- ・ ボランティアの確保が難しい

三島市在住。富士宮で日本語の教師をしている(西村)

- ・ 放送大学でメンターをしている
- ・ ICTツールを使っての遠隔学習
- ・ ソーシャルネットワークを活用したアプローチによる、グローバル社会につながるための日本語

伊豆の国日本語話そう会 (久木野)

- ・ 週1おしゃべりを通して日本語を教える
- ・ ベトナム人が多い。フィリピン人やALTは減った。
- ・ 学校・病院などから通訳を頼まれることもある
- ・ 着付け・田植え・防災センター（静岡）を見学するイベントを行った

裾野 (吉田)

- ・ 講師は14人、年2回打ち合わせを行っている
- ・ 学習者が1回あたり3人ぐらいと少ないのが悩み
- ・ 温泉ツアーはだめかな？
- ・ 授業料は0円にした。

静岡県国際交流協会 (古橋)

- ・ 日ボラスキルアップ研修会を焼津市と共催で開催
- ・ 実習生対象の支援
- ・ 外国人実習生がいる企業の日本人向けの勉強会をしている。費用は初年度（20時間）無料で、それ以降は協会と半々を2年、その後は企業が100%持ち。
- ・ 矢崎先生による教員向け勉強会
- ・ 外国人子供支援員養成講座
- ・ 定住外国人の正社員化（今年度の目標10人）

三島 (芦川)

- ・ おしゃべり会
- ・ サロンで会の全体的な話をした。各個人がよく勉強していたのが印象的だった（N1を教えるにはこんな本が良いなど）

のびっこ (石井)

- ・ 高校受験に7人全員合格した（私立3名、県立4名）
- ・ 土曜ののびっこはアモール（日大）と一緒にやっており、新1年生が約10人入ってくれた。
- ・ 家庭内のことについては各専門機関と協力して対応し、無理して出来ない役割を果たそうとしないよう心がけるようにした
- ・ ソーシャルワーカー等との横のつながりが大事になってきた

以下事前に報告して下さった内容

ふじのくに多文化共生ネット (高澤)

6月に、沼津国際交流協会と共催で、外国人とまち歩きをするイベント第2回目を開催しました。

今後、沼津以外の市町でも開催する予定です。

今年度は役員改選で、静岡大学の原澤先生、県の多文化共生課長、および日大国際関係学部の先生と大学院の教授が理事に加わり、静岡県東部を対象とした、多文化共生事業を計画しています。

ボランティアで事務局のお手伝いをしてくださる日本人・外国人を若干名募集しています。（経理担当者はいますので経理業務はありません）

裾野 (佐野)

裾野は最近タイの実習生が来ています。

土木作業関係のようです。ベトナムの実習生も大量？に来ているとか・・・

しかも、日本語がほとんどわからないらしい。。どっと来られたらどうでしょう。。

生徒さんは少ないですが、安定しています。

最近の実習生は、以前の人よりより日本語の力がついていない！、と感じますね。

裾野の日本語教室は少し前からフェイスブックやっています。

アケミさんが「管理」してくれています。

先週は「七夕アクティビティー」やりました。

CIRCULO (田中)

植月先生も御殿場に越してしまい、事実上1人で切り盛りしている状況です。

清水町教室の方には、ボランティアの方も何名かいらっしゃるのですが、まだまだこれからといったところです。

日々のレッスン、清水町教室、日曜教室と3本立てでやっている形に変わりはないのですが、なかなか厳しいです。

熱海 (中村)

熱海の日本語教室は、旅館で働くベトナム人が2名、フィリピン人介護士が4名、日本人配偶者の中国人3名、タイ人、日本人の親を持つフィリピン人、企業で働いているスコットランド人と計12名を、講師5人で教えています。

レベルも目標もばらばらで、少々ザワザワしています。

夏休み期間中にはベネズエラから1名、加わる予定です。

他、特に生活面、就労の問題などはございません。

~~~~~

### ○定例会での小話 (相田)

#### 「文盲」(アゴタ・クリストフ 1935~2011) を読んで感じたこと

著者は1956年21歳の時、ハンガリー動乱で難民としてスイスに亡命し、偶然フランス語圏に入り一生を過ごした。執筆時点でフランス語を30年以上話し、20年以上書いているが、いまだに習熟しておらず一生戦いだという理由から、フランス語を「敵語」と呼んでいたとのこと。私が特に印象的だったのは、そのような感情を持ちながらも、「より深刻なのは、この言語が、私の中の母語をじわじわと殺しつつあるという事実だ」という部分です。偶然降ってきて習得が必要になった言語に対し「一生が戦い」と感じるというのは、(この著者の背景を考慮するとおさら)想像に難くないですが、母語を殺されるという問題意識は持ちづらかったです。

この感覚を身近にいる外国人も多かれ少なかれ持っているものなのか、また本人も日本語に適応するのに大変な中、そのことを意識化できずにストレスを感じているというようなことが無いかなど、関心を持ち心配に思った。我々が外国人と接するなかで、相手の母語を意図的に軽視するようなことはあまり無いかもしれないが、何かもう少し考える余地があるのではというヒントをいただいた。(以上要点)